

健康相談室

あなたの相談に専門医がお答えします

耳鼻咽喉科



歯性上顎洞炎。歯は完治したが、鼻の症状が治まらない

57歳、男性。数カ月前から左の鼻からの鼻汁と鼻づまりがあり、耳鼻咽喉科に受診するとむし歯が原因の「歯性上顎洞炎」と診断されました。転勤に伴い、左上奥歯の治療を中断したのが原因のようです。むし歯は完治しましたが、鼻の症状は一度は改善したもののぶり返してしまいました。(宮城県 M)



● 回答者

笠井耳鼻咽喉科クリニック
自由が丘診療室(東京都)

笠井 創

A 歯科および耳鼻科での治療が十分に行われても改善のない場合には、歯性上顎洞炎の手術を考慮

成人の急性あるいは慢性副鼻腔炎の原因の一つとして、むし歯や歯周囲炎による歯性上顎洞炎があります。むし歯を放置していると、歯性上顎洞炎がおこります。原因となっているむし歯と同じ側の上顎洞に炎症がおきること、顔面の疼痛、ほおの違和感や痛み、鼻閉がおきます。炎症の原因として嫌気性菌が関与していることが多く、感染をおこした鼻汁は独特の悪臭がする膿性の鼻漏となります。

歯性上顎洞炎の診断は副鼻腔炎と同様に、画像診断が有効です。副鼻腔にたまった膿などは、X線検査で診断できます。副鼻腔粘膜の炎症や微妙な腫れ、原因歯と上顎洞との関係などを確実に診断するには、CT(コンピュータ断層撮影)が適しています。

原因の歯に対しては、歯科的に十分な根管処置を受ける必要があります。炎症が治まらない場合に

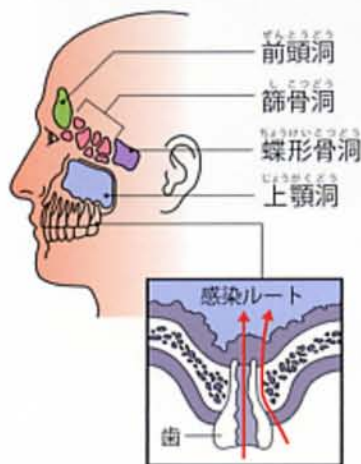
は、抜歯が必要になることもあります。同時に、罹患した上顎洞の炎症に対しては、細菌感染を抑えるために抗生物質を使い、鼻漏の粘り気を和らげて粘膜の腫れを抑えるために、消炎酵素薬、粘液溶解薬、ステロイドなどを内服します。

耳鼻咽喉科での局所治療としては、鼻の処置を行い、副鼻腔と鼻腔(鼻の中)をつなぐ自然口を大きく広げる処置によって交通路をつけ、ネブライザー療法(抗生剤や血管収縮剤を霧状にし

て散布する治療)で上顎洞にたまった膿汁の排泄を促すようにします。膿汁の排泄が十分できない場合には、直接鼻内から上顎洞に注射針を刺して抗生剤で副鼻腔内を洗浄する治療も行われます。

十分な歯科治療と耳鼻科的処置治療が行われても改善のない場合には、歯性上顎洞炎の手術を考慮することになります。手術は通常の副鼻腔炎の手術と同様に、内視鏡を使用した鼻内手術で、上顎洞を中心に副鼻腔を広く開放して炎症を鎮めるものです。

◆副鼻腔の位置と歯性上顎洞炎の感染ルート



副鼻腔と呼ばれる鼻のつづきの空洞には図のように4種類ある。

このうち上あごの奥歯の上にある空洞を上顎洞といい、むし歯の放置や不適切な処理によって、その炎症が上顎洞におよぶと副鼻腔炎の一つである「歯性上顎洞炎」になる。